

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての事業所のあり方については、今までの理念の上に「地域の中で共に支えあい、共に歩む」を基本として位置づけをし、地域に開かれた施設として取り組み、質の確保を目指している。	○ 積極的に地域活動に参加し、地域との交流に努め開かれた施設にしていこうと心掛けている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やカンファレンス及び、勤務終了時の報告などを通じて理念を共有具体化できるようにしている。またその思いを基に標語や心に残る言葉の共有等を職員全員で考え掲示している。	○ 関わりや具体的なケアが理念の実践となっているのかという視点で掘り下げて検討していくこと。心に残る言葉が共有出来る事で、職員間の足並みが揃っている事を実感できている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域推進会議や家族合同茶話会、法人の祭りや文化祭を通じ、利用者が行事や日常生活の中で地域に出掛けていることを知らせている。	○ 運営推進会議及び茶話会の開催や家族の行事への参加を呼びかけている。形式ばかりでなく気軽に参加できる雰囲気を作っている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の畑やお店に気軽に出かけ、お店や近所の人達と顔なじみとなり会話が弾んでいる。畑仕事を教えて頂いたり、お店の人と顔なじみになる等交流を深めている。地域の清掃や校区の交流等に声を掛けて頂ける様になった。	○ 今まで築いてきたものを大切に、今後にお付き合いを発展させて行きたい。世間話や、情報交換のなかから親睦を深めて行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会や民生委員の方々と連絡しあってお祭り、花見、七夕まつり、もちつき、ヤキイモ大会等に参加している。また、他地域からも声をかけて頂き、小学校の祭りに参加している。時には施設へお招きして、祭りや交流会などを行い、行き来している。	○ 学校、幼稚園、保育所等の行事に参加して子どもたちと交流の機会を多くし、地域活動に参加、交流を深めて行く。法人在介主催の介護者教室にて、認知症を理解する為の寸劇を行い普段大切にしている事を伝えられるよう取り組んだ。第2話の依頼もあり行なっていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>法人として地域への取り組みは行っている。 (募金活動・車マナーコンテスト・大規模災害の消防協力・緊急災害時の避難場所)</p>	○	事業所として、高齢者の暮らしの安全確保に役立つことを話し合い取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>前回の評価を受けて、指摘があった所はもちろん、出来ている事出来ていない事を再確認し、翌日から改善に取り組んでいる。また改善点も長期に有効活用出来る様にしている。</p>	○	事業所の理念を忘れず職員一人ひとりの考えを活かし、同じ気持ちを共有したケアを心がけている。時に調査報告書を読み返し、振り返り、又、次の段階の取り掛かりとなる様にしている。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>地域の代表者やご家族に事業所での生活や暮らしぶりを写真や広報誌、ビデオ上映などでわかり易く報告して。また、利用者にも数名参加してもらい実際の声を聞いてもらい、率直な意見を出してもらえる様に取り組んでいる。在介主催の介護者教室にて認知症の寸劇を行い、会場で発表した。</p>	○	意見が出やすいような雰囲気作りに努め、今後も、いただいた意見を真摯に受け止めサービス向上に活かして行きたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>北保健福祉総合センター及び北区地域包括支援センターとは研修会の開催や、ケースやプランの相談等連携は適宜行われている。</p>	○	常に連携をとり地域のニーズや新しい情報を知り、地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう支えて行く。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>地域グループホーム勉強会や、文献、法人からの情報などで学習している。</p>	○	制度を活用するケースが増えてくることが予測されるため理解を深めて行きたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>法人内に身体拘束廃止、虐待防止委員を設置している。委員を中心に全職員が学ぶ機会として勉強会で例を挙げて検討している。</p>	○	閉鎖された空間の中、忍耐強く関わらなければならない状況にあって虐待に至らなくても、抱え込んでしまわない様に職員同士の支えあい、ストレスの発散など留意していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	不安や疑問を尋ねるための時間や説明にはゆとりを持って行っていく。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	意見・不満・苦情を伝えそれが改善に向けて努力され生活に変化をもたらすというところまで利用者が実感できる様にしていきたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	お小ずかいの使途を通じて暮らしぶりが伝わることもある。金銭トラブルがないよう保管にも注意している。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	運営推進会議でも家族代表の意見を求めて行きたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	今後も積極的に意見交換を行い運営に反映させて行きたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	利用者の求めるものを必要な時に柔軟な対応ができるよう調整して行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみ職員によるケアを心がけているが、異動や離職がやむを得ない場合も引継ぎに努力をし継続したケアが行われるように配慮している。	○	異動2~3ヶ月前より顔馴染みとなれるよう勤務調整をしたり、引継ぎの期間に幅を持たせ、継続したケアが行われるようにする。また、事前や事後にきちんと挨拶する機会を持ち利用者の混乱を防ぐ。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員、非常勤職員ともに研修の機会を設けている。その内容は勉強会で報告され報告書として全員が閲覧するようにしている。また、書籍の貸し出しを行い自己学習に役立てている。	○	資格取得を目指す職員には勤務体制への配慮を可能にするための職員間の支援ができるようになってきた。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区においては北グループホーム会を作り、毎月1回会議を開催、情報交換、勉強会、事例研究、相互訪問、相互研修等行い活動を通じて事業所外の人材の意見や経験をケアに生かしている。	○	今後もさらに活発に活動し、グループホーム全体の質の向上と地域支援へと発展させて行きたい。計画作成担当者の勉強会は、他ホームの計画を拝見でき参考となった。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	苑長と職員また、職員同士なんでも言い合える雰囲気作りに努めている。勤務状況に応じ他ユニットに入ったたりなど行き詰らない様に配慮している。	○	働きやすい環境づくりを心がけ、利用者から受ける喜びや感動、感激、また失望・落胆を共有できるようにしていく。又、お互いが持っている苦労や解決法などを話し合い、分かち合える様にする。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月に1度の勉強会で技術であれば、お互いに体験し合い、知識の習得であれば利用者には当てはめて考える等、一方通行にならない様、意識を持って取り組める様務めている。	○	職員個々の努力や実績個性を認めプライドを持って働けるようにして行きたい。勉強会、研修などを通して今行っているケアの確認、気付きなどにもつながり前向きに取り組んでいる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人からの訴えを傾聴し、受け止めるよう努めている。1人ひとりからの話し合いの中で求めている事柄を気づき、話しを聴く時間を作る。	○	初期に築く本人との信頼関係の重要性を理解している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まずは、家族から職員に言いやすい雰囲気を作る事が重要。気安さだけでなく受容を重視したユニットの体制作りを試みる。家族の立場から物事を考え、不安や困っていることを具体化し、求めていることは何か理解に努めている。	○	本人だけでなく家族の立場での不安、求めていること迄をも視野に入れることはたやすいことではないが努力して行きたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性を見極め法人全体での支援を行っている。	○	緊急性を見極めた対応にも努めていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用を経て、ホームの入居は時期尚早と家族が判断され見送ったケース、やむを得ずすぐに利用となったケースがある。家族に協力を求め職員も安心感を持っていただけるよう努力した事例であり、臨機応変に対応していく。しかし、利用前に自宅を何度か訪問し、顔なじみのきっかけを作り、部屋の様子を見せてもらったり、短時間だが会話を待つなどで生活状況の把握に努めた。	○	利用者が馴染んでもらうために職員は努力をしていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自分の思いを上手く言葉に出来ず他者とトラブルになりがちな方にも、職員が間に入りお互いの調整をしたり、何か作業をする時には一緒に行い、ともに出来る喜びや達成感を共有できるようにしている。	○	今後も得意とする事を発揮できる場面作りを行なっていきたい。年齢層の幅があり、男性の多いユニットでもあることから強い個性がぶつかり合うことも多いが、そこで折り合いをつけながら生じる喜怒哀楽に学ぶことも多く、気付かされることや生き方までが感じ取られる。そして、利用者からの心づかい、いたわりの言葉をいただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族付き添いでの病院受診、携帯電話を用いての自由な連絡、季節ごと衣替えなど、家族ならではの役割を通し家族の思いを知り共に支えていくような関係を築いていく。年賀状の作成の際には、家族が宛先の間違ったものをそっと交換しに行ったり、陰ながら本人を支えてくれている。	○	生活は共にしていないけどいつも家族の中には家族の一員であることへの存在感があり、利用者本人も自覚を持ちながら生活されている、という事を理解していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症で言葉が出にくく家族へ怒ってしまう利用者へは、職員が間に入っただけの思いの伝達など行っている。各自の活動したことなど、家族来苑時には伝えるようにして家族と共に外出、外食する機会を作っている。数年ぶりに正月外泊された時に、家族が戸惑わないよう、ここでの生活の詳細を伝えた。	○	外出（美容室・食事・買い物）のついでに自宅に立ち寄り、家族の皆に会える機会を作っている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の夏祭りや年賀状、手紙の交信を継続し馴染みの人との関係が断ち切らないように努めている。	○	利用者の要望で、お祝い事のおすそ分けを他部署へ異動となった職員にもしたことがあり、今後も継続していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で声を掛けあって行事等と一緒に参加している。少しの間車椅子を押してもらうことによって、利用者同士の関わりを増やしている。食事の支度の場合、それぞれの役割を持ちつつ配膳時には利用者同士が「これはあなたの分」とかそれぞれ箸や茶碗を皆の分覚えてくれており「○○さんの」とやり取りしている。また、間違えている方がいても「違うよ」と教えたりしてフォローし合える関係が築けている。	○	新しく入居された利用者が、自然とこの中にとけ込まれ、今までと同じような利用者同士の関係が保たれるように支援していく。又、居間での座席にも配慮している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ここでの馴染みの関係が持続できる様な関わりをもっている。	○	馴染みの関係として時には懐かしく思えるような心の支えとなるよう入居中からの関わりを持つ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉だけではなく、表情や仕草など気付いたことや、家族や関係者よりあつめた情報を職員間で共有し、本人の思いを知るために把握、検討に努めている。	○	その時々によって変化する希望や意向を職員間で検証し、検討して行きたい。また、結果が出た時は家族に伝え共に喜びを共有する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の思い出話や家族との会話の中から生活歴や習慣などの把握に努めている。	○	ここでの生活に取り入れることが出来るところに関しては積極的に取り入れていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	廊下を歩いているときや、居間にいるときなど様々な場面で何気ない表情を読み取ることで心身状態を読み取り、現状把握に努めカンファレンスにもって行く。	○	ケース記録、事業日誌、連絡ノート等を活用し、日々の関わりの中で心身ともに変化を見逃さないよう努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの情報のみならず、日常の会話や行動及び職員の情報収集し、本人や家族の思いに沿って計画を作成している。また、家族の訪問時には近況を伝えると共にプランについても話し、確認を取っている。医療面は看護師と話し合う。何気ない家族の言葉から介護への想いを汲み取るようにしている。	○	必ずしも関係者が一堂に会することばかりではないので日頃より広く意見を集めるようにしている。今後さらに記録やモニタリングが次の介護計画へとつながる様に持って行く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの必要がある時はカンファレンスを行いモニタリングの結果、計画を見直すようにしている。状態、状況変化に応じて夜勤者への伝達内容、職員会議での報告事項などがプランに盛り込まれているかという逆からのプランの見直しとすることもある。	○	話し合う機会をすぐに設けるのが難しい場合もある。また、中々話す機会を持ちにくい家族もあるので解決したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に記入し、申し送りも口頭だけでなくユニットでの連絡ノートに記入して確認のサインをすることによって、情報を共有するようにしている。又、夜勤者には宿直室に申し送る内容を紙で貼り出すことで、漏れがないように実践や見直し等に活かしている。	○	勤務入りした際の日勤・夜勤者間での申し送り、連絡ノートの閲覧と確認サインの記入、ケース記録の備考欄を活用していく。「夜勤者の皆様へ」と題した夜勤者用の申し送りを記した貼り紙。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かしその利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活継続、入院後に重度化した場合や終末期の入院の回避など、本人や家族の状況に応じて必要な支援に柔軟に対応している。	○	状況に応じてのショートステイの受け入れを開始した。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の出初式や学校の文化祭、校区の催し等に参加している。また、医学部学生の実習を受け入れ、利用者が健康面での相談をする機会となっている。地域の民生委員からは行事に招かれ顔なじみになっている。	○	毎年、参加する行事が増えている。今後ももっと多くの協力機関を作って行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて対応や協力は行いたい。	○	必要が生じたら速やかに対応して行く。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターには地域推進委員会にも出席を得て、必要な情報を提供してもらったり、近隣事業所との情報交換の場を設けてもらい、良い交流の場となっている。	○	地域包括支援センターと協働することにより地域の状況把握に努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	<p>夜間、緊急時、病院受診の流れをフローチャートにしてスムーズに対応できるようにした。今後も家族との連携を密にしたい。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>看護師は利用者の平素の状況の把握に努め、変化をキャッチする職員の声に耳を傾けて行くこと。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>医療機関から情報を得ながら早期退院ができるよう働きかけて行く。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>本人に「ここで過ごしたい」と言ってもらえる様なユニットを目指したい。又、重度化していても、ありのままの姿を受け入れるよう務め、支援について自己研鑽を積んで行きたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>それぞれが抱え込んでしまうことなく、チームで支えるという意識を持って取り組んで行く。利用者の方々が最後まで居心地が良い自分の希望する場所で過ごせる様、本人の状態の把握、ユニットの情報の共有、またケアの統一化を図って行きたい。チームみんなが優しい気持ちと暖かい心を伝えるようにして行きたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの希望があった場合、利用者本人と何度も話し合いを重ねると共に家族の意向も踏まえダメージを防ぐよう努めている。他のグループホームや施設からの入居に際しては生活状態、状況、サマリー等を参考にし、環境の変化を最少限度にとどめるよう努めている。	○	現在の取組みをさらに充実したものとし、ダメージを防ぐ。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねることのないような関わりを日々言葉を変えながらも考えまた、職員同士も指摘し合い意識の向上に努めている。言葉掛けや、話し方、声の大きさにも充分注意する。また、記録等の書類は厳重に保管している。	○	人生の大先輩であるという意識を常に持ち、症状がその方の全てではないことを念頭に置き、受け止める心やその人らしくお互い楽しく生きて行けるような支援をしたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意見を尊重すると共に、自分の意見が言いづらい人や自己決定しづらい人の何気ない仕草や立ち上がり動作からも意思を汲み取れるよう努めている。	○	食えること、着ることはもちろん行きたいところ、したいこと等、辛い事、楽しい事も一日一日の自分で決める経験の積み重ねが毎日の生活となるようまた、普段していることが快適にでき、したいと思える様な環境づくりを支援をして行きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、食えることより寝てたいと話す方、何事も早め早めで行ないたい方、皆で揃って“いただきます”をしたい方…その時の状況に合わせた支援を行なうよう心がけている。	○	全体としての輪を保ちながら個々の生活を大切に持っている。 マッサージを受けたいと話す方には法人内の整体師にってもらっている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出着と部屋着を使い分けて過ごされ、身だしなみを気にかけている方にその都度さっぱりしてますね、いい組み合わせの服ですね…等声を掛けるようにしている。散髪などは希望に沿うよう努めている。時には職員が経営する美容室にも行き、安心して散髪してもらえるようにしている。	○	身だしなみを整えたい、だらしない姿は恥ずかしいという昔ながらの意識、考えを充分理解する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日朝・昼食を特養調理室に取りに行く役割、人数出勤者に合わせた食器の準備をする役割、盛り付けの役割、そして居室にいる利用者を迎えに行く役割などそれぞれが役割を持ちできた食事であることに感謝しながらいただくことを楽しみにしている。	○	食に対する関心が生きる喜びにつながるよう、畑で出来た野菜や果実と一緒に収穫する楽しみや季節の物を味わえるメニュー作りを提供している。嫌いな食べ物は器に入れず代替を行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ作りをして自分の分を作って食べる楽しさや、他利用者へ自分が関わったおやつを食べてもらい、そこから会話する喜びを味わってもらおう。飲み物は好みの温度がある為向う。又、コーヒーもブラックがいい人もおり、その人に合わせて用意している。タバコが吸いたい新規の利用者の為に、新たに喫煙場所を設けていつでも吸えるようにしている。	○	アレルギーのある方や苦手なメニューのある利用者へは、それにかわるメニューを提供している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	月間の排泄表を使用することで排泄パターンの把握をし、排泄介助が必要な利用者は一日ごとに排泄時間を記入する表を使うことで、失敗やオムツの使用を減らし気持ちよく排泄できるように支援している。冬は排尿時間の間隔を短くしたりと季節に合わせた対応をしている。	○	排尿の間隔がつかみにくい時もあるがトイレで気持ちよく排泄ができる様に関わっている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	脱衣所が寒すぎたり暑すぎない様、温度調節をしている。自分のカレンダーに入浴日を記入している利用者には行事等重なった場合、優先する方を決めてもらう。入浴が負担に感じられたり、長湯してしまう利用者に対しては見守りや一部介助でそれを軽減できる様タイミングを見計らった声掛けをしている。	○	毎日入浴したい方や、日にちを決めて入っている方が希望日に入浴する時に、時間帯が重なり嫌な思いをされないように気をつけている。入浴がしんどいと感じられる方に対して、どの様に声を掛けるかユニットで検討している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その人の今までの生活習慣に合わせて昼寝をして休息を取ってもらったり、気持ちよく眠れるよう各利用者に合わせて居室の温度調節をしている。	○	眠いサインや疲れた様子を見逃さず、本人に確認しながら入眠や休息がスムーズに図れるよう支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	献立表のメニュー書き、植物の水やり、掃除機がけなど自然な形の役割がある。その役割を利用者同士認め合い、助け合って生活できるよう支援している。食器洗いの分担(洗いとすすぎなど)にも配慮し、また作品の展示を行い次回作への意欲の向上につながるようにしている。	○	高齢となっても役割、楽しみを見つけられるようにしていかなければならない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食等で支払いの時はその時に払ってもらい、お金を支払っているという感覚を大切にもらえるよう支援している。又、支払い場面で残金をさり気なく確認しトラブルにならない様注意している。	○	耳が遠く聞きにくい方へは職員が間に入り店員等とのつながりを作っている。お金を所持されている方からは、隔月お茶代500円を預かり領収書を渡すやり取りを行っている。その際、先月のおやつ支出費への確認をしてもらいサインをもらっている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って散髪やクリーニング、近くのスーパーへ買い物へ行き、又特に希望がない場合でも散歩や外出の機会を設けて戸外に出られるよう支援している。畑を借りており収穫の時は共同して作業している。外出表を作成し状況を把握しやすい様にしている。	○	買い物へ行きたいと希望される時は、その都度対応している。季節を感じてもらえるようにお弁当やおやつを持って戸外に出掛けている。近くの喫茶店にも出掛けたりしているケースもある。また、天候に誘われて玄関先に出ることもある。散歩よりも寝ていたいと話す利用者への支援が課題である。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足や大泉緑地へ年2回ヒーリングガーデンへ出掛け普段とは違う場所で、食事をしたり散策して楽しんでもらえる機会を作っている。相撲好きな方には大阪場所を観戦しに行き、楽しんでもらえるように支援している。時々おいしいケーキ店で誕生会を開いたりもしている。	○	希望を反映できる機会を増やして行きたい。貸し切りバスでの小旅行や相撲の観戦は今後も続けてゆきたいと思っている。外出する時に家族にも参加してもらっている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持して家族と自由に連絡がとってもらえる。姉妹などお互い高齢などでなかなか会えない利用者には写真を同封した手紙や職員が間に入って電話をする。	○	手紙が届いたときには「返事書きますか？」等の声を掛け、家族とのつながりを保つように働きかけている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来苑された時には、居室の椅子を確保したり居間の提供をしている。職員が間に入っての会話をしている。お茶とお菓子を出すことでゆっくりと過ごしてもらえるようにしている。	○	自室で過ごされることもあるが、居間で他者を交えて談話をされたりと自由に過ごしてもらっている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で指摘し合えるような雰囲気作りを心掛けている。また委員会を設置し何が身体拘束なのか勉強し法人内で、日々のケア、声の掛け方が身体拘束になってはいないか振り返る機会を勉強会の中に設けている。	○	今後も勉強会や研修で身体拘束と虐待についての理解を深め確実なものとして行く。何気なく行っていることも、自分自身に置き換えて本当に良いかどうかを再度考慮していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>行きたい所へ行けることの自由さと安心を持ってもらえる様にしている。玄関は特養と併設の為防火戸となり、夜間のみ閉めている。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	<p>安全面とプライバシーの配慮、この二つを両立させるのは難しいケースもあるが不快な思いをさせないようにしたい。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	<p>おかきやクッキー等に付いている防腐剤、乾燥剤にも配慮している。居室でタバコを吸わないように張り紙もしている。本人が不快に思わないような言葉使いに配慮している。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>事故があったときには速やかに対策を立て、他ユニット、特養の事故なども伝え合うことで事故の再発防止に努めて行きたい。今後も報告書は必要に応じて改善して行きたい。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>職員が緊急時に落ち着いた対応ができるよう日頃から心がけるようにしたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>近隣住民の協力も得られるよう働きかける。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクのない生活はないということを基準に利用者がよりその人らしく暮らしてゆけるような働きかけを行いその都度家族等に説明している。	○	家族が気兼ねなく訪問することで家族も共に支えているということとリスクの理解を深める。生活のどの場面においても、本人の機能理解した上で必要に応じ見守り付き添い介助を行っている。外出の際の歩行状態が室内とは違うことを理解し対応している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	言葉だけではなく表情、歩行、排泄、食欲、声の大きさなど一つの動作から体調の異変に早期に気付くよう努力し、速やかに連絡を取り合っている。	○	速やかな対応を心がけて行く。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報表を作成し、薬に対しての理解に努めており、症状の変化があれば看護師に連絡している。職員の要望に応じて薬についての本を購入し、知識を深めている。	○	配薬時に名前と日付を確認し、誤薬のないようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	浣腸に頼らない自然排便へと考え、食事内容水分摂取を検討している。	○	看護師と連携しながら薬の調整を図っている。便通をよくする食材なども取り入れている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分で義歯の管理ができる利用者に対しても確認をおこなっている。訴えがあった時は歯科受診を行う。舌ブラシを使用し口腔ケアを行っている。歯科衛生士の資格を持つ職員によりケアのアドバイスをもらっている。口腔ケアのDVDを職員全員が見て、口腔ケアについて理解を深めている。またいつでも見れるように置いている。	○	物品を常に清潔に保てるようにしていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士が献立を作成している。水分摂取量は表を作成し、個別の必要量を確認した上で1週間単位で状態が把握できるようにしている。又、野菜の固さ好みの調理法等食べやすくする工夫を続けることによって栄養が保てるようにしていきたい。	○	苑長・リーダーは法人内給食会議にて食事内容について各部署の意見交換・検討を行い、より良い食事の提供となるよう努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後や食事前の手洗い、うがいの奨励や布団の乾燥、空気の入替えなどを習慣的に行っている。また、感染症には予防マニュアルを普段から目に付くところに貼りだし活用している。	○	習慣的、継続的に行えるようにしたい。また予防と早期発見に努める。併設施設の感染症、発症状況を速やかに把握して持ち込まないようにしていく。職員の職業意識に鑑み自ら健康管理にも努めていく。また、新たに委員会を法人にて設置し現在Q&Aの作成に取り組んでいる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的な台所の消毒や冷蔵庫の清掃を行い衛生管理に努めている。保存している食材には日付を必ず記入している。新しく調理から来たものでも賞味期限を確認するようにしている。食品衛生管理者の資格を持つ職員から指導を受けている。	○	食器やまな板、布巾など毎日消毒出来る所を増やしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の植木や花を飾ることもあり、陵東館秀光苑の掲示板は最高年齢の方が書道教室で書いてこられたものである。	○	特養を経由しての玄関ということで分かりにくいという見方もあるが玄関を出ると、馴染みの特養・ショートステイの方々、、、という安心感にも繋がっている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたデザインの行事予定表を貼ることで季節を感じてもらう。毎日の掃除を利用者と共に行い居心地のよい居場所にして、洗剤の匂い、炊事時のまな板の音や、御飯の炊ける匂い、入浴の水の音など、生活感を意図的に出して五感に働きかけ、さらに行事や活動の写真にふき出しやコメントを入れ楽しみながら見れるようにしている。	○	トイレの汚れ、臭気に素早く対応したり、タバコに対応する為の空気清浄機の設置をしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は自分で座る席を互いに決めておられ、そこが自分の居場所と考えられている様子で、その場が一番落ち着かれている。	○	テレビの横、植木鉢の横に設置した椅子がくつろぎの場となったり、お互いの居室を行き来したり思い思いに過ごしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	馴染みのもの・コーヒーメーカー・仏壇・猫のカレ ンダーや習字の作品などの展示をする	○	入居が長期になってきた利用者が多く、居室が我 が家になりつつある。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	掃除をしている時は、換気窓を開けている。空調 調節は各居室ごとに行え、使用者の状況や要望に 応じて行っている。時には、窓を全開にし、外の 空気を楽しんでいる。太陽の日差しが直接当たら ないように、植木などを置いている。コーヒーを 入れた後の、粉を消臭として使用している	○	喫煙場所には空気清浄機や消臭剤を置き、吸われ ない方への配慮をしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ベッドの高さの調節や手すりを活用している。廊 下の椅子などで一服する場を作っている。車椅子 は、移動する手段ととらえ、椅子に座れること の、大切さも考えている。身長の高い利用者には 椅子やテーブルを低くしている。脱衣所の椅子も その人に合わせて両側に手すりのある椅子を用意 している。	○	背丈の低い利用者へは、食事の際美味しく食べれ る様その人に合ったテーブルを用意している。椅子 は、足がつく高さになっている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	メニューを見て食器を選び、必要数並べられる。 一人ひとりの湯のみ・箸・お茶碗がわかる。自分 で洗濯機を使用されるので、わかり易く番号を書 いている。吸殻を捨てようという思いがあるの で、吸殻専用のザルとゴミ箱を設置している。	○	朝と夕を間違えたり、混乱される時も多いが、わ かることから、説明を行い納得され行動に移され るのを待っている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	アサガオの植えを行い、今までやってきた様に 育てる楽しさや花に愛着を持ってもらえるよう にしている。花の買い物など、季節の要所で購入し 季節を感じてもらっている。	○	ベランダのアサガオのつるが、風になびいたり花 を咲かせている。アサガオのつるは、秋にとり入 れクリスマスのリース作りに使用している。ベラ ンダで咲いた花は、テーブルの上を飾り青紫蘇や ネギはおやつや食事で使用したりしている。新芽 で青々とした植物は、居間に持ってきて楽しんで いる。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ユニットは大まかな1日の流れはあるものの、食べるより寝たいと話す方や、居間へ来てコーヒーが飲みたいと話す方、日を決めて入浴される方などあくまでも希望や状況に合わせ、それぞれのペースで生活できるようにしている。生き物が好きな方は飼っているどじょうやめだかに餌をあげたり、字を書くことが好きな方は毎日のメニューを書いてもらったり、部分的であれシーツ交換や掃除を行ったり、食器洗いをしたりなどそれぞれ出来る事をしながら、楽しみや役割、張り合いをもってもらえるように関わっている。以前は「皆の為に」という思いから食事等の準備を一人の方がしていたが、体力の低下からそれをするのが難しくなり、皆が役割を分担して助け合って準備している。その変化が、利用者同士の関わりや会話を増やしお互いが理解を深めるいい機会になった。職員はその関係が保てるように、時には一緒に行いながら援助している。外出の際は、要望に合わせた個人の洋服、タバコなどの買い物や散髪の外に、相撲好きな方達で春には大阪市立体育館まで春場所を観戦しに行った。また、よく郵便局へ行きたいと話す方は、近所の郵便局へ行くと局員に「〇〇さん、今日はどうされたんですか？」と顔を覚えてもらっており、地域の人達との交流も増えつつある。又、新規で入居された方がタバコを吸われるとのことで、苑内での喫煙者は初めてだったが空気清浄機をおいた試みや、使用済みのコーヒー豆を利用して消臭剤代わりにする等して、その人の嗜好を尊重しつつ以前から入居されてる方にもあまり影響がないように努めている。